

式 辞

例年にない大雪に見舞われた二月も過ぎ、春の息吹が感じられる今日の佳き日に、平成二十八年度第六十九回 滋賀県立虎姫高等学校 卒業証書授与式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより、本校にとりましてこの上ない慶びとするところであります。

ご来賓の皆様には、ご多用の中ご臨席賜り、誠にありがとうございます。高壇からではございますが、厚くお礼申し上げます。

また、ご列席いただきました保護者の皆様には、三年間の高校生活を経て、立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、感激もひとしおのことと存じます。改めて心よりお祝い申し上げます。また、この間、賜りました本校への深いご理解と温かいご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、ただいま卒業証書を手にした234名の皆さん、卒業おめでとうございます。

これまで、皆さんを温かく支えてくださったご家族をはじめ、先輩、同級生、後輩、そして先生方への感謝の気持ちでいっぱいだと思います。

今、私たちを取り巻く環境は2つの意味で大きく変わろうとしています。1つは、人工知能（AI）の発達により、これまで人が必要とされてきた仕事内容の変化です。例えば自動車でいうと、その技術革新は、自動ブレーキから、自動運転へと進み、無人タクシーの実用化にまで及ぼうとしています。物作りの工場でも、単純な作業はもちろんのこと、複雑で精密さを求められる作業にまでロボット化が進んできています。ルールに従って作業する職業は、AIなどで置き換えられる可能性が高いと言われていています。一方で、創造性を必要とする仕事や、他人との協調が求められる仕事は、なくなる可能性が低いと言われています。そのために求められる力とは何なのかを、見極めていく必要があります。

もう一つの変化は、トランプ大統領の就任によるパワーバランスの変化やイギリスが離脱することによるEU崩壊の危機、発展途上国と呼ばれた国々の驚異的な成長、テロの脅威、難民問題等、日本を取り巻く世界情勢の急激な変化です。

私たちは、好むと好まざるとに関わりなく、激変する世界情勢の渦の中で生きていくこととなります。3年後の2020年には東京オリンピックが開催されますが、その時の訪日外国人は4000万人とも言われています。日本にいても、多くの海外の人や文化と接することになるでしょう。領土問題等の課題を抱える近隣諸国の人たちとも交流していかなければなりません。このような国際情勢・国際社会の中で生きる私たちには、多様な価値観や文化に対する対応力が求められているとともに、自分の考えを、自信を持って述べられる力も併せて必要となります。

文部科学省は、現在、明治維新以来とも言われる教育改革に取り組んでいます。将来の変化を予測することが困難な時代にあって、自ら課題を見つけ、協働して解決できる力をつける教育への転換です。

分かりやすく言うと、何かあったときに、自分たちで考え、直ぐに行動できる力、すなわち「生きていく力」を身につけると言うことです。

虎姫高校では、5年前から文科省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の指定を受けています。この中で皆さんは、1年生の時文系・理系に関わらず、探究活動に取り組んできました。ミニ課題研究やフィールドワーク、また、長浜バイオ大学でのバイオセミナーなど、これから必要とされる力をつける教育を、意欲的に先取りして行ってきました。大学等でも、皆さんが在学している間に、講義形式の授業から、こういった形の授業に転換が図られていくものと思います。皆さんは、虎姫高校でこのような取組をしてきたことに自信と誇りを持ってください。

234名の卒業生の皆さんとは、一人ずつ面談をさせていただきました。その際にも、伝えた事かもしませんが、卒業に際して、期待したいことを三つ伝えたいと思います。

まず一つ目は、いろいろなことに挑戦し、自分の視野を広げて欲しいということです。そのために、与えられるのを待つのではなく、まず、自ら一歩踏み出してみてください。経験したことのないことや違う考え方にも興味を持ち、謙虚さと柔軟さを持ち続け、自らの視野を広げてくれることを期待します。

二つ目は、協働することを大切にしてほしいということです。

ここで言う「協働」とは、協力して働くという意味の「協働」です。一人でできることには限界があります。これからは、それぞれ得意な分野を持った人たちが協力して一つの課題を解決していくことが求められます。これは、SSHの課題研究やフィールドワークにおいても、グループで取り組む中で、その一端を経験してくれたと思っています。

最後、三つ目は、一人の国民としての意識を持ち、積極的に社会参加して欲しいということです。選挙権が18歳に引き下げられました。また、成人年齢の引き下げの議論も始まっています。いつの時代でも、社会には多くの問題があります。私たちは、今の豊かさや平和は、こうした問題の上にあることを認識しつつ、それらに向き合い、自分には何ができるのかを考えて行かなければなりません。自らの言動に責任を持ち社会参加してくれることを期待します。

最後に、もう一度皆さんにこの言葉を贈ります。

「虎姫高校生徒綱領」です。

- 一 我々は、真理に憧れ、豊かな教養を積もう。
- 一 我々は、正義を尊び、勇気を以て事にあたらう。
- 一 我々は、健やかな心身を練り、質実を旨としよう。
- 一 我々は、博く人を愛し、奉仕を信条としよう。

この綱領は、これからもずっと心に留め、人生の目標としてほしいと思います。皆さんだけでなく、私自身も、また、ここに居る全ての人の「人として」の目標ではないでしょうか。

虎姫高校は皆さんにとって母校、つまり心のふるさとです。2020年、東京オリンピック開催の年に、創立100周年を迎えます。卒業後も母校への思いを持ち続け、何かあったら母校を訪れてください。私たち教職員も在校生と共に母校の充実・発展に努めていきます。

卒業生の皆さんが、健康に充分気をつけられ、日本だけでなく世界を舞台に活躍されることを願って、卒業にあたっての式辞といたします。

平成二十九年三月一日

滋賀県立虎姫高等学校長 藤 居 毅